

# Book Review

## 歯界展望別冊 Tooth Preparation

西川義昌・桑田正博 編著

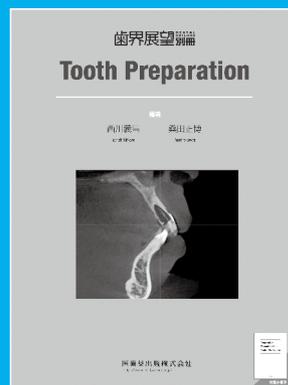


Reviewer

本多正明

(東大阪市・本多歯科医院)

A4 判変型, 120 頁  
定価 6,090 円  
(本体 5,800 円+税 5%)  
医歯薬出版刊



歯界展望別冊『Tooth Preparation』を読ませてもらって最初に感じたことは、基本がいかに重要であるかということである。基本を身につけていて、はじめて応用がきくのではないだろうか。このことは歯科にかぎらず、特に技術の修練を必要とするプロフェッショナルにとって、基本となる知識を得ることはもちろんのこと、基本技術をしっかりと修練し、身につけることが重要である。その結果、判断力が培われ、応用力が向上していくであろう。

このように捉えると、われわれ歯科医は、歯科治療に対する基本となる知識をもつことと、内科医のような診断力と外科医のような技術力を高めていくことが肝要であり、また歯科技工士は、歯科治療のなかの補綴治療の位置づけを明確にし、そのうえで補綴治療の基本的な知識を身につけることが重要である。さらに、歯科医とともに補綴治療の目的

- ① 機能の回復
  - ② 審美性の改善
  - ③ 残存組織の保全
- を明確にし、その目的達成のキーワー

ドである

- ・健全な歯質
- ・健康な歯周組織
- ・咬合安定
- ・構造力学的安定

を実現することが可能な修復物の形態を知り、イメージできるようになることが大切であろう。そしてその形態を適正に作製する技術力が求められる。

本書の「Chapter 1 支台歯形成の基本概念」の冒頭に、「支台歯形成とは、歯質の失われた歯において、適正な修復材料を用いて生物学的、構造力学的、そして審美的に「適正な歯の姿」を創生するための前提となる治療工程である」と書かれている。さらに、「支台歯形成は Preparation (準備すること)と言語化されている」とある。この意味合いは、適正な修復物を作るための準備ということであろう。

ここで思い出されるのは、私自身が、1974年に南カリフォルニア大学の Dr. H. Coleman, Dr. R. Kim から“ペリオと補綴の相関関係”という講演のなかで、補綴治療の重要な基本概念として学んだ「クラウンの咬合面を咬合

へ配慮なしに作製すると、咬合性外傷はもちろんのこと、ペリオやエンドの問題が起こり、また、軸面を生物学的配慮なしに作製すると、ペリオやカリエスの問題が起こってくる」ということである。このことは、補綴治療の目的達成のために適正な形態のクラウンを作製することが、いかに重要であるかを物語っている。

以上のようなことから、機能的・構造力学的に適正な咬合面形態を作ることと良好に力のコントロールができ、生物学的に適正な形態で清掃性が高く、炎症のコントロールが容易な軸面形態を作ることが、固定式の歯科技工の幹となるといえる。そして当然、審美的にも優れている必要がある。

われわれが日常臨床でつい忘れがちになる、これらの基本的なことが的確にまとめられており、臨床経験のある人から若い世代の人たちまで、ぜひ読んでもらいたい成書である。

最後に、このような素晴らしい本をまとめられた、西川先生、桑田先生をはじめ執筆された先生方に敬意を表したい。